

# CSR 報告書 2013

人と社会の  
コミュニケーション

人と地球の  
コミュニケーション

心をつなぐ、  
社会をつなぐ

チームNTTの  
コミュニケーション

安心・安全な  
コミュニケーション

CONTENTS

NTTコムウェア  
グループについて

トップメッセージ

NTTコムウェア  
グループの歩みと強み

多様なサービスで  
思いを形に

NTTコムウェア  
グループのCSR

CSR活動ダイジェスト

報告媒体のご紹介/  
編集方針



# NTTコムウェアグループについて

## NTTコムウェアのビジョン

### アイデンティティ

NTTコムウェアは、システムの品質と信頼性を追求し、豊かなコミュニケーション社会の実現に貢献します。

### 価値・行動基準

- お客様のために  
お客様の持続的な発展のために、ともに考え、ともに行動します。
- 株主様のために  
企業価値向上のために、プロフェッショナルを目指します・育てます。
- 社会のために  
社会の安定のために社会の一員としての役割を果たし、ルールを守ります。
- 上司、部下、同僚のために  
最高のチームパフォーマンスのために、“わかっているけど誰もやっていない仕事”に、進んで取り組みます。
- 自分自身のために  
自分の夢を実現するために、自らの可能性を信じ、〇〇し続けます。

## 企業概要

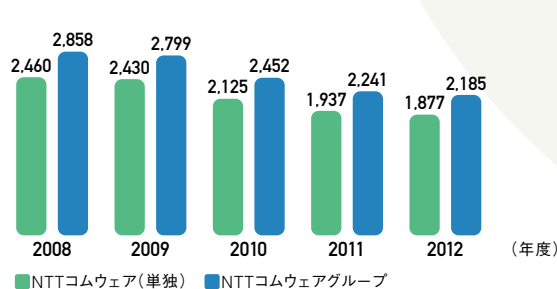
社名 エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社 (略称:NTTコムウェア)  
本社所在地 〒108-8019 東京都港区港南1-9-1 NTT品川TWINSアネックスビル  
資本金 200億円  
株主 日本電信電話株式会社  
創業 1997年9月1日

## グループ会社

NTTコムウェア北海道株式会社  
NTTコムウェア東日本株式会社  
NTTコムウェア東海株式会社  
NTTコムウェア西日本株式会社  
NTTコムウェア九州株式会社  
NTTコムウェア・ビリングソリューション株式会社  
NTTインターネット株式会社

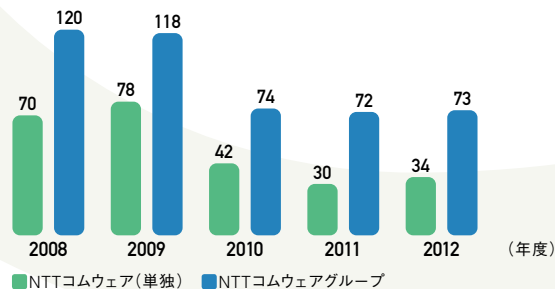
## 売上高

(億円)



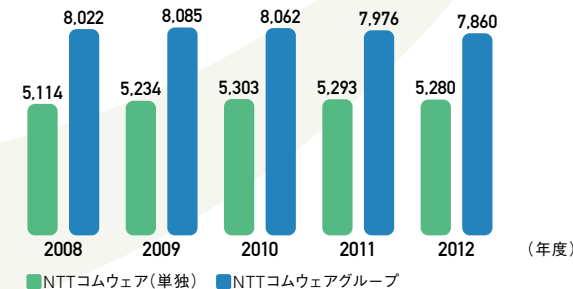
## 営業利益

(億円)



## 社員数

(人)



# トップメッセージ

## コミュニケーションの今日を支え、明日を創る

NTTコムウェアは2013年9月で創業16年目を迎えました。

長年にわたり日本の通信インフラをシステム面で支えてきた技術と経験、さらに最新のICT技術を加え「心をつなぐ、社会をつなぐ」をスローガンに、社員一人ひとりがお客さまのビジネスに新しい価値を提供してまいりました。

具体的には、スマートコミュニティの普及に向けたネットワーク技術や携帯端末による近接通信技術の活用方法に関する研究を推進し、ユビキタス社会の実現に向けた取り組みを行っています。

また、グリーンICTを追求したソリューションの開発や社員参画による「企業の森・NTTコムウェア(青梅)」における森林保全活動などを通じ、低炭素社会の実現に向けて積極的に挑戦し続けています。

このほか、震災の教訓を活かした災害や故障に強い次世代ネットワークの実現に向けた研究開発や、セキュリティの確保に向けた技術開発を進め、重要インフラの信頼性とセキュリティ向上に臨んでおります。

こうしたさまざまな取り組みを通じて、お客さまのビジネスの成功を今後も実現してまいります。

NTTコムウェアグループでは、コンプライアンスや人権などの企業倫理を社会の一員として社員一人ひとりが遵守するとともに、社会貢献活動や環境活動に継続して取り組んでいくことで、事業を通じた社会的な責任を積極的に果たし、チームとして、企業市民として調和のある事業を進めてまいります。

このCSR報告書がステークホルダーの皆さまとの架け橋になればと思っております。何かお気づきの点などがございましたら、忌憚のないご意見をいただけますようお願い申し上げます。

NTTコムウェア株式会社  
代表取締役社長

海野 忍

Shinobu Umino





# NTTコムウェアグループの歩みと強み

NTTコムウェアグループは、NTTグループのネットワークを支える部門と、顧客サービス業務を支えるシステム部門が統合して誕生しました。

## NTTコムウェアグループの歴史

- 2012年 9月 NTTコムウェア創業15周年
- 2007年 9月 NTTコムウェア創業10周年
- 2005年 4月 Eclipse Japan Working Groupを設立
- 2002年11月 「Value Innovation 2002」開催
- 2002年10月 全国5つの地域別グループ会社発足
- 2001年 8月 NTTインターネット株式会社へ出資
- 2001年 4月 NTTコムウェア・ビルングソリューション株式会社発足
- 2000年12月 「COMWARE FORUM 2000」開催
- 2000年11月 NTTコムウェア株式会社に社名変更
- 2000年10月 EJBコンポーネントに関するコンソーシアムを設立
- 2000年 1月 2000年問題対応完遂
- 1999年11月 品川ショールームをオープン
- 1999年 7月 NTT再編成における関連ソフトとシステムの再構築完遂
- 1998年 6月 米国カリフォルニア支店営業開始
- 1998年 4月 NTT再編成にともない、関連プロジェクト始動
- 1997年 9月 NTTコミュニケーションウェア株式会社営業開始
- 1997年 4月 NTTコミュニケーションウェア株式会社設立
- 1996年 7月 ソフトウェア本部発足
- 1991年 4月 通信ソフトウェア本部発足/情報システム本部発足
- 1987年 7月 ソフトウェア開発センタ発足/社内情報システム開発センタ発足
- 1985年 4月 日本電信電話株式会社内に中央ソフトウェアセンタ発足

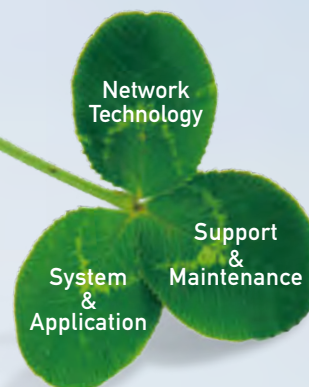


花粉の少ない森づくり運動  
企業の森・NTTコムウェア(青梅)

## CSRの歩み

- 2013年 5月 東京都「とうきょう森づくり貢献認定制度」における貢献認定書授与
- 2011年10月 NTTコムウェア・ビルングソリューション九州センターに太陽光発電設備を設置し運用開始
- 2011年 6月 リユースパソコンの東日本大震災被災地への寄贈
- 2010年 6月 TABLE FOR TWOの開始
- 2009年 2月 「花粉の少ない森づくり運動-企業の森」協定締結
- 2008年11月 マイカップ利用の推進活動の開始
- 2008年 9月 エコキャップ運動の開始
- 2008年 9月 NTTコムウェア内食堂における食品リサイクルループによる料理の提供開始
- 2008年 5月 ビル温暖化対策としてビル屋上にて「さつま芋」の栽培開始 (NTTコムウェア西日本)
- 2007年11月 「NTTコムウェアグループCSRの日」の設置

## コア・コンピタンス



### ネットワークテクノロジー

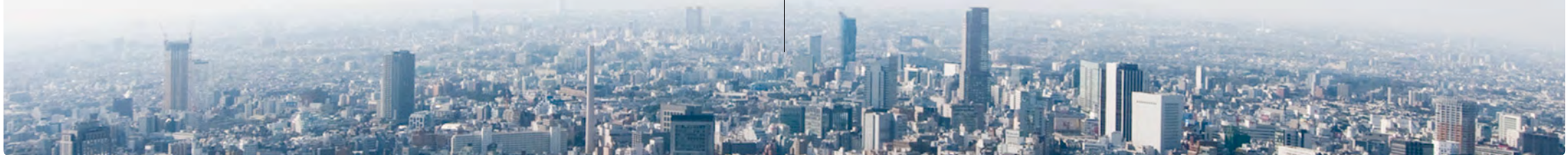
NTTグループでは、お客さまに選ばれ続ける“バリューパートナー”を目指し、クラウドサービスを機軸としたグローバル事業展開を積極的に行っています。NTTコムウェアは、NTTグループの情報通信サービスを支える確かな技術力で、オープンでシームレスな先進のネットワークソリューションをご提供し、お客さまの多様化し増大するICTニーズにお応えします。

### システム&アプリケーション

NTTコムウェアは、NTTグループで培ったビッグデータの取り扱い、ミッションクリティカルなキャリアビジネス、オープンソースに関する豊富な知識・ノウハウなどを柔軟に活用し、さまざまなお客さまが、変化し続ける市場ニーズに的確に対応できるよう、最適なICTサービスをご提案します。

### サポート&メンテナンス

ビジネスのグローバル化、クラウドサービスの活用など、ネットワークシステムは企業経営のライフラインとなっています。NTTコムウェアはNTTグループの基幹業務を支えてきた実績と経験をもとに、さまざまなお客さまに対応した最小限のコストで最適な運用・保守・監視体制を構築し、お客さまのビジネスを強力にご支援します。



# 多様なサービスで思いを形に

## ～社会に根ざす私たちの事業～

私たちは、高度情報化・グローバル化を続ける社会を、最先端のICTの力で支えています。

### NTTコムウェアグループの最近のソリューション

#### 公共

##### タンジブル防災ソリューション

紙地図感覚で操作できる次世代防災システムにより、災害時の迅速な意思決定や情報共有を実現し、自治体の災害対応力の向上や防災対策立案を支援します。

##### 市民コールセンターシステム

住民からの問い合わせに電話で的確に対応するコールセンターシステムを提供し、行政サービスの品質向上とコスト削減に貢献します。

##### モバイル・テレメディシン・システム

救急車と病院をリアルタイムで結ぶ医療情報共有システムにより、適切な初期対応による救命率向上を実現します。

#### タウン

##### RFID ソリューション

ICタグを利用したリアルタイム在庫管理システムにより、お客さまをお待たせしない売り場を実現します。

##### EasyDo

携帯電話でQRコードを読み取り、クレジットカード決済するシステムにより、お客さまの利便性向上に役立ちます。



##### PHISHCUT

電子透かし技術を利用し、インターネットバンキングやインターネットショッピング事業者を装い、個人情報搾取・悪用するフィッシング詐欺を防ぎます。

##### Smart Pit

お客さまに請求書を発行する必要がない新しい形態のコンビニ収納サービス。よりスピーディーで安価な料金収納代行サービスを提供します。



##### SmartCloudイメージベースAR

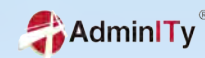
画像認識技術を活用して画像から関連動画を再生する、スマートフォンやタブレット端末を使用した新感覚の映像体験を提供します。観光マップや雑誌、ポスターなどへの活用が期待されています。



#### ビジネス

##### AdminTy

端末管理ソフトウェアにより、企業のIT資産を適切に管理し、統合的なセキュリティ対策を実現します。



##### 社員安否情報システム

大規模自然災害やパンデミックなどの発生時に、社員や家族の迅速・確実な安否確認を可能にし、事業継続・復旧を支援します。

##### follow

勤務管理システムで従業員の勤務データ集計の効率化や情報管理の高度化を推進します。



##### SmartCloud

耐災性やセキュリティ、省エネ性能に優れたデータセンターを、資産を持たずに利用できるクラウドサービスで提供します。



##### 端末ライフサイクルマネジメント

スマートフォンやタブレット端末を対象とした企画支援・調達・導入・運用・廃棄サービスを提供します。一連の業務をアウトソーシングサービスとしてワンストップで提供し、セキュリティ対策、コスト削減、業務効率化を実現します。

##### ぶるナビ(ぶるぶるナビ)

コミュニケーションのお客さま対応業務をフローでナビゲートすることにより、対応品質の向上と対応ミスの減少を図り、顧客満足度の向上に貢献します。

#### 2012年度のTOPICS

##### Staffiaシリーズ

2012年1月～

派遣元・先会社間における、労働者派遣に関する契約・勤務管理・請求などの業務を支援するメニューをトータルに提供し、業務上のさまざまな課題解決をサポートします。

##### SmartManual

2012年7月～

マニュアル、カタログ、研修資料などの社内コンテンツを電子化し、スマートデバイス(タブレットなど)上で参照できるサービスです。ドキュメント管理の効率化やドキュメントの利用を促進するとともに、利用実態の見える化を実現し、企業の業務改善を支援します。

##### SmartCloud セキュリティソリューション

2013年11月～

お客さまの大切な情報資産を守るため、お客さまシステムの脆弱性を見える化する「セキュリティ診断サービス」、不正アクセスを検知・防御する入口対策の「NWセキュリティ監視・運用サービス」、標的型攻撃による機密情報の漏えいを防ぐための出口対策「標的型攻撃対策ソリューション」により、セキュリティ対策を支援します。

\*「EasyDo」、「EasyDo」ロゴは、NTTコムウェア株式会社の登録商標です。

\*「PHISHCUT」は、NTTコムウェア株式会社の登録商標です。

\*「Smart Pit」、「Smart Pit」ロゴは、NTTコムウェア株式会社の登録商標です。

\*「PictuAR」ロゴは、NTTコムウェア株式会社の登録商標です。

\*「AdminTy」、「AdminTy」ロゴは、NTTコムウェア株式会社の登録商標です。

\*「follow」、「follow」ロゴは、NTTコムウェア株式会社の登録商標です。

\*「SmartCloud(スマートクラウド)」、「SmartCloud(スマートクラウド)」ロゴは、NTTコムウェア株式会社の登録商標です。

\*「ぶるナビ(ぶるぶるナビ)」は、NTTコムウェア株式会社の登録商標です。

\*「Staffia(スタッフファ)」は、NTTコムウェア株式会社の登録商標です。

\*「SmartManual」は、NTTコムウェア株式会社の登録商標です。

\*その他、記載されている会社名、製品名などは、各社の商標または登録商標です。

NTTコムウェア本社  
NTT品川TWINs  
アネックスビル



私たちの思い

## ユビキタス社会の実現に取り組む

### ICTの力で、より便利な、活力ある社会を

自分の書斎にいるように、カフェでメールを受け取り、仕事をこなす。街中の広告にスマートフォンをかざすと、お気に入りのブランドの新作がチェックできる。ブロードバンドインターネットの世界的な整備とスマートフォンなど情報端末の普及は、私たちの日常を大きく変えつつあります。このような「便利で快適な社会づくり」「新しい消費スタイルを通じた活力ある地域づくり」に向け、ICTはいまや不可欠な存在です。

NTTコムウェアは、ICTインフラとその上で動くシステム・アプリケーションづくりに携わってきたノウハウを集め、ユビキタス社会の実現を推進し、より便利な社会づくりをめざしています。たとえば多くの携帯端末が装備している近接通信機能に着目し、最先端の活用方法を実現しています。

▶可能性が広がる近接通信を活用したO2Oサービス

### スマートな未来を形にする

家庭やオフィスのさまざまな機械がネットワーク化されることにより省エネ制御や見守りができる。そのような「未来の生活」を実現するため、各国で「スマートコミュニティ」の研究が進んでいます。

NTTコムウェアは、NTTグループの中核企業として、スマートな未来づくりに貢献しています。とくにスマートコミュニティ実現のうえで必須となる、多種多様な機器やアプリケーション同士が簡単に接続できるための方式や、スマートコミュニティシステムの運用を効率化する技術を検証し、その有効性を確認しています。

▶スマートコミュニティ普及の決め手 IEEE1888





新たな消費体験と地域活性化に貢献する  
O2Oサービス



新しいエネルギーとの付き合い方を実現する  
スマートコミュニティ

### 可能性が広がる近接通信を活用したO2Oサービス

スマートフォンなど携帯端末の普及により、クーポンやさまざまな新作情報を携帯端末に発信し、利用者を実店舗に誘導するO2O (Online to Offline) サービスが注目されています。とくに地元の店舗や催事の情報を配信し地域活性化に結びつける試みが活発です。ただし、従来の手法では、利用者が消費電力の大きいGPS機能を利用したアプリケーションを常に起動しているとは限らないため、必要なタイミングで情報を受け取れないという問題がありました。

NTTコムウェアでは多くの携帯端末が装備している近接通信デバイス「Bluetooth」の省電力性に着目、携帯端末が常時取得している携帯基地局情報を組み合わせて位置検出を行うことで、情報を配信する特定エリアに入りさえすれば、利用者が携帯端末を操作しなくとも、サービスを利用するためのアプリケーションを自動起動できるようにすることで、新たな消費体験と地域活性化の可能性を模索しています。

### スマートコミュニティ普及の決め手 IEEE1888

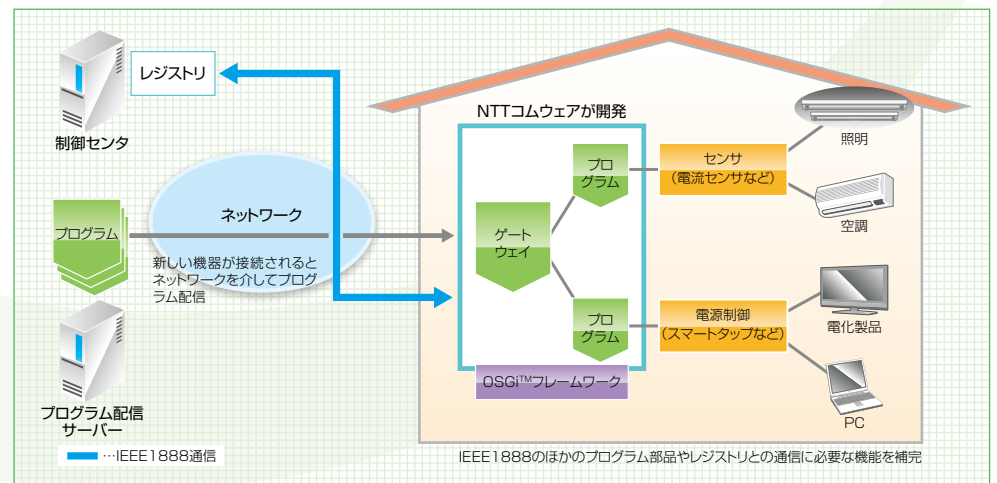
スマートコミュニティのなかで実現されるサービスはいくつもありますが、そのなかで最も注目されているサービスは消費電力の見える化や空調・照明の省エネ制御などを行うエネルギー管理システム(EMS)です。とくに住宅向けEMS (HEMS)やビル設備向けEMS (BEMS)の普及が進んでいます。一方、これらのシステムは相互に連携し大規模化することで節電効果は大きくなりますが、現在は各システム内で用いられる通信規格が異なるために連携できない問題や、セキュリティやプライバシーへの配慮などにより実現は進んでいません。

この問題の解消に向け2011年に国際標準化された通信規格がIEEE1888です。NTTコムウェアは同規格の制定や実証実験などを目的とし産学連携団体である「東大グリーンICTプロジェクト」に参画しています。ホームネットワーク分野やオペレーション分野における知見を活かし、IEEE1888の家庭内への適用や運用効率化について検証を進めています。

#### スマートフォン向け情報配信技術 サービスイメージ



#### 家庭内でのIEEE1888ゲートウェイ





私たちの思い

## 低炭素社会の実現に向け、Green by ICTへの挑戦

### 信頼のデータセンターで、 次世代のグリーンICTを

街中の看板、日々のニュース、私たちは『エコ』という言葉を目にしない日はありません。将来の子どもたちに緑あふれる豊かな地球を残していくため、地球温暖化の抑制や生物多様性の保全など、低炭素社会の実現は世界規模で取り組む必要があります。とくに企業には、事業活動の省エネ化のみでなく、製品・サービスの環境性能の向上を通じた貢献が期待されています。

NTTコムウェアでは事業を通じた多様なグリーンICTソリューションの開発（Green by ICT）に積極的に取り組み、地球温暖化防止に向けて積極的に挑戦しています。なかでもクラウドサービスの浸透によりデータセンターの役割が高まる現在では、そのグリーン化を重要な課題としてとらえ、SmartCloudデータセンターは、世界最高水準の環境性能を実現しています。

▶ 環境性能に優れ高信頼なデータセンター

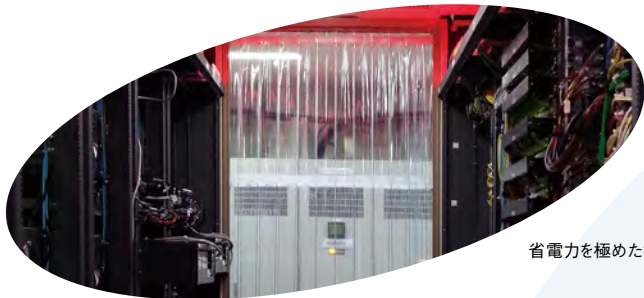
### お客様のグリーン化に貢献する

地球規模の低炭素化を実現するためには、単一企業ではなく企業の相互連携が必要になってきます。お客様の事業の省エネ・グリーン化に貢献することは、お客様満足向上の観点のみでなく、企業が連携し社会全体で低炭素化を推進する観点からも極めて重要です。

NTTコムウェアは、ICT企業として、提供するサービスの環境性能の向上を常にこころがけ、お客様と社会の信頼に応えています。

▶ SmartCloud デスクトップ「ソリューション環境ラベル」を取得





省電力を極めた排熱式データセンター（ホットアイル）



お客様の環境負荷低減に貢献するソリューションを提供

### 環境性能に優れ高信頼なデータセンター

NTTコムウェアは、世界最高レベル\*1の省電力“PUE”<sup>2</sup>=1.1以下”を実現した「排熱式データセンター」サービスを、2012年11月から開始しました。

通常のデータセンターでは冷房装置の活用が一般的ですが、「排熱式データセンター」は冷却装置を一切使用せず、ICT機器から発生する熱を屋外に排熱する完全外気空調方式を採用しています。約1年間の検証を通じ、厳寒期や酷暑期においてもPUE=1.1以下の安定したサービスの提供が可能であることを実証した同方式は、従来型と比べサーバー1,000台あたり年間300トンのCO<sub>2</sub>排出量削減効果を有します。

\*1 2012年10月時点、NTTコムウェア調べ  
\*2 Power Usage Effectiveness:PUE

### SmartCloud デスクトップ「ソリューション環境ラベル」を取得

NTTコムウェアが提供する、シンククライアントソリューションSmartCloudデスクトップは、環境に配慮したサービスとしてNTTグループ「ソリューション環境ラベル\*」を取得しています。SmartCloudデスクトップの導入は、以下の効果によりCO<sub>2</sub>排出を抑制します。

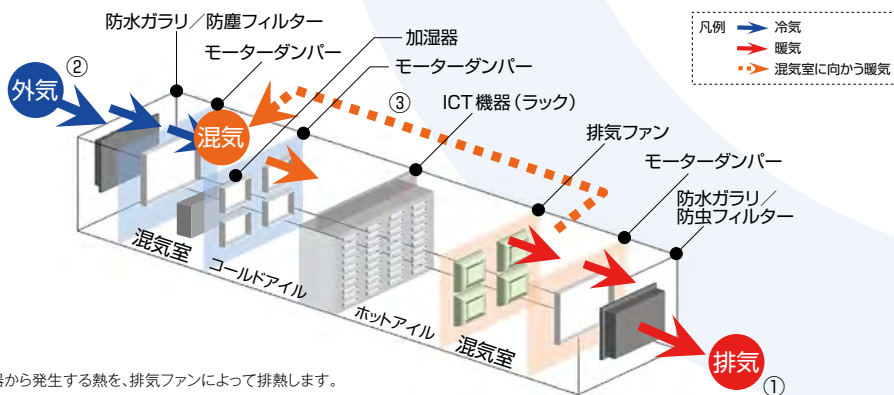
- ICT機器の消費電力の抑制
- ロケーションフリーによる人の移動（交通機関利用）の減少
- ペーパーレス会議による紙出力の削減

当社実績（5,500端末の導入）では、約19.5%のCO<sub>2</sub>の削減を実現しました。

NTTコムウェアは、同制度を積極的に推進し、お客様の環境負荷低減に貢献すると同時に、低炭素社会の実現に向け積極的に取り組み続けます。

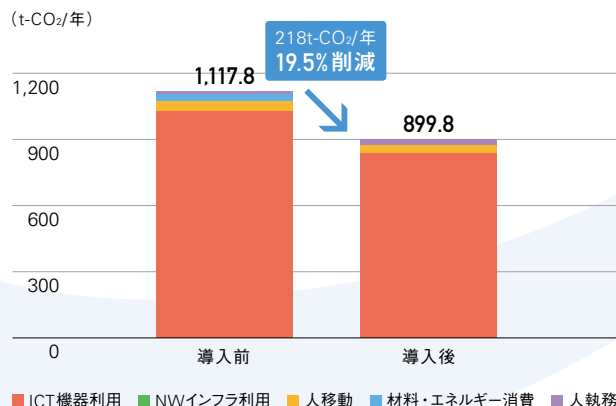
\* NTTグループ「ソリューション環境ラベル」は、NTTグループが提供するICTソリューションにおいて、環境負荷削減効果（CO<sub>2</sub>排出量削減効果）が一定基準を上回るものを「環境にやさしいソリューション」として認定する制度です。NTTグループは、このような環境負荷削減効果のあるサービスを提供することによって、社会全体の環境負荷削減をめざしています。

### 「排熱式データセンター」の外気空調モデル



- ① ICT機器から発生する熱を、排気ファンによって排熱します。
- ② 排気ファンにより生じる気圧差により、外気を取り入れます。
- ③ 気温が低い場合は、外気と排熱を混気・加湿し、ICT機器の吸気温湿度を最適に調整します。

### SmartCloudデスクトップ導入前後のCO<sub>2</sub>排出量





私たちの思い

## 重要インフラとして、信頼性とセキュリティの向上に臨む

### いかなる時も、「安心につなげる」

「もしも」の時こそ、大切な相手と連絡したい。ネットワーク網を安定させたい。— 常に揺るがない情報通信手段を確立・維持することの重要性は、東日本大震災以降、いっそうクローズアップされています。

NTTコムウェアは、震災の教訓を活かし、ICTの力で高度情報社会のインフラを支えていくため、次世代ネットワークの実現に向け、研究開発を進めています。たとえばクラウドの先端技術「SDN/OpenFlow」を活用し、有事の情報通信網の安定化策の検証を進めています。災害や故障に強い広域ネットワークの実現に向け、「安心でつなぎ続けられる通信」をめざしています。

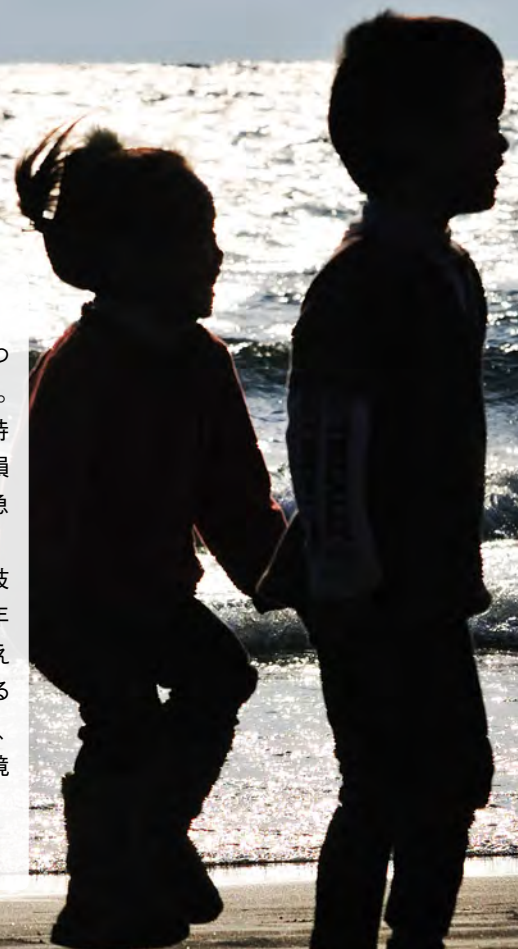
▶ SDN/OpenFlowを活用した有事のネットワーク安定化

### 日々、大切な顧客情報の「安全を見守る」

多くの企業がネットワーク上でつながる現在、企業の持つ重要な情報が新たな危機にさらされる可能性が生じています。ネットワークへの不正アクセスに加え、内部情報の違法な持ち出し、誤った情報流出など、企業とそのお客さまに大きな損害をもたらしかねない情報セキュリティ問題への対策は、緊急度を高めています。

NTTコムウェアは、ICTスペシャリスト集団として、先進の技術で、日々、顧客企業の情報を守り続けています。とくに近年は、特定の組織や個人を狙った「標的型攻撃」による情報漏えいや大規模な不正アクセスが社会問題として注目されていることを受け、その対策を強化しています。これらの成果は、SmartCloudセキュリティサービスを通じ、お客さまのICT環境にあわせたセキュリティ対策の現場に生きています。

▶ SmartCloudセキュリティ、標的型攻撃対策を強化







ITインフラを通じ社会を常に支えるという使命



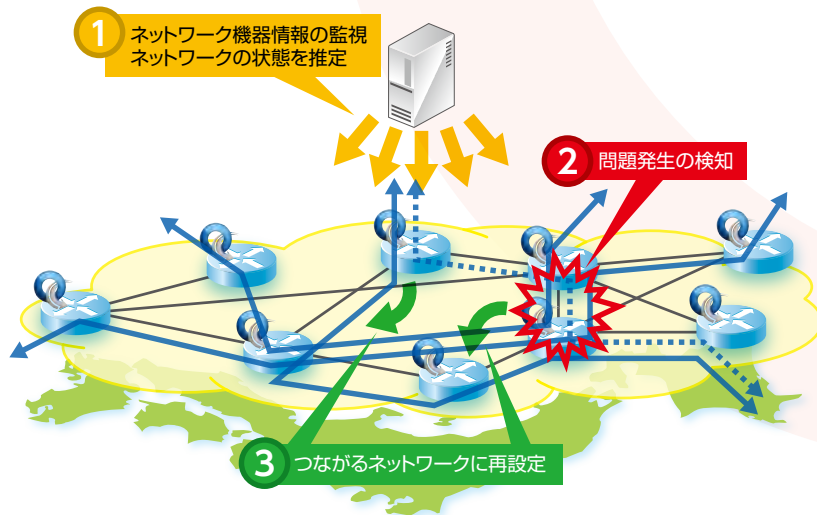
NTTコムウェア 統合監視センター「FSC24\*」

### SDN/OpenFlowを活用した有事のネットワーク安定化

クラウドサービスが浸透するなか、サーバーを自社の広域ネットワーク上で共有する企業が増えています。一方、ネットワークの中継点にあたるスイッチなどの設定は依然として作業員が現地に赴き手作業で行う必要があります。このことは、ネットワークの大規模停滞が発生した際に企業の広域システムがダウンするリスクとなります。

NTTコムウェアは、ネットワーク全体をソフトウェアで集中管理・自動制御できる技術として、データセンターのシステム制御で活用されてきた“SDN/OpenFlow”に注目し、広域ネットワークに活用する実証実験を独立行政法人情報通信研究機構(NICT)と共同で展開しています。災害や故障に強いネットワークには故障箇所の早期検出や迂回路の早期確立がポイントとなりますが、ここにネットワークサービスの品質維持に関するNTTコムウェアのノウハウが活きます。

#### つながる広域SDN/OpenFlowネットワークの実現に向けて



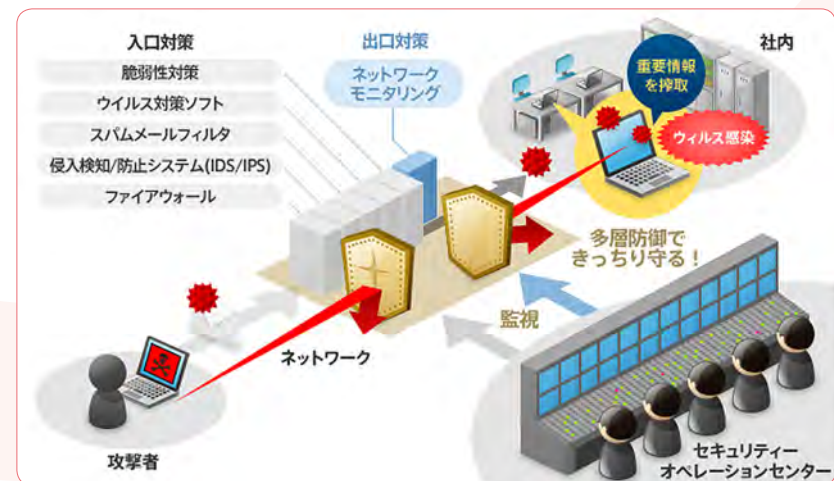
### SmartCloudセキュリティ、標的型攻撃対策を強化

近年、特定組織や個人を狙う「標的型攻撃」による被害が社会問題化しています。対策が難しい同攻撃に対し、NTTコムウェアが基幹システムや企業イントラネットの構築・運用で培ったノウハウは有効であり、これを「標的型攻撃対策ソリューション」として提供しています。

標的型攻撃は一般的に①標的対象(組織・個人)の「調査」、②未知のマルウェアを仕込んだ偽装メールなどによる「感染・侵入」、③インターネット上の悪意あるサーバーからの指令による「拡散・拡大」、④「情報の奪取」の4段階を踏みます。同ソリューションでは②段階でマルウェアの侵入を防ぐ「入口対策」と、万が一、マルウェアへ感染した場合に、③④段階でマルウェアに感染した端末とインターネット上の悪意あるサーバー間の通信を検知し、情報漏えいを防ぐ「出口対策」に独自の知見を活用・展開。24時間365日体制でお客さまの重要情報の漏えい防止を実現します。

\*FSC24(Field Service Cockpit 24)はNTTコムウェア株式会社の登録商標です。

#### 「入口」「出口」を多層防御



私たちの思い

## チームとして、企業市民として、 調和ある事業を進める

### 個の成長と企業の成長を、ともに実現する

社員は企業の重要な人材であり、その成長を支援することは社員の自己実現をバックアップするだけでなく企業の発展にもつながると考えています。

NTTコムウェアは、差別のない職場づくりは当然ながら、社員と企業がともに成長する「チーム」でありたいと思っています。このような考えのもと、具体的なスキル育成施策の構築に留まらず、独自の技術者認定制度を全社規模で徹底するなど、私たちならではの人材育成の仕組みづくりに向け、取り組んでいます。

▶ プロフェッショナルの育成および、スキル認定制度

### 多様な貢献活動を通じ、社会に根ざす

法令遵守はもとより、さまざまな貢献活動に積極的に参画し、企業市民としての責任を果たすという姿勢は、多様化・グローバル化する社会のなかで、その重みを増しています。

NTTコムウェアは、さまざまな社会貢献活動を通じて社員の社会貢献に対する意識の向上や社会の課題解決への貢献など、会社一体となった「チーム」としての活動を続けています。なかでも、「企業の森・NTTコムウェア(青梅)」では森林保全の取り組みに企業として積極的に取り組んでいます。

▶ 企業の森・NTTコムウェア(青梅)





プロフェッショナル集団として、きめ細かい育成制度を整備



企業市民として、地域との調和に向けた活動を展開

### プロフェッショナルの育成および、スキル認定制度

ICTに関する技術の進歩がめまぐるしい現在、プロフェッショナルとして顧客から期待されるスキルは多岐にわたり、社員のキャリアデザインは企業と社員がともに取り組むべき重要な課題です。NTTコムウェアでは、経済産業省が策定したITスキル標準(ITSS)をベースにした独自の社内スキル認定制度「ComCP(Comware Certified Professional)」を設定し、グループ全体で社員のキャリアアップを促進しています。具体的には、同制度はICTプロフェッショナルを7つの人材像に分類し、それぞれ7段階のグレードに規程しています。さらに、人材像ごとの必要なスキルと、グレードごとに求められるスキルの達成度も規程しています。これにより社員は、個々のスキル単位で自身の詳細な現状把握と具体的な目標設定が可能となり、スキルアップのサイクルからキャリアアップへとつなげていきます。

#### ComCP 取得者数

(単位:名)

グレード	人材像							合計
	ITSS相当レベル	アカウントマネージャ	プロジェクトマネージャ	サービスマネージャ	アプリケーションスペシャリスト	テクニカルスペシャリスト	サービスクリエイター	
Executive	L7	2	3	0	1	0	1	7
Professional	L6	40	59	21	12	12	8	152
Expert	L5,L4	243	383	92	672	557	46	1,993
Associate	L3,L2,L1	81	157	0	1,070	1,069	24	2,401
合計		366	602	113	1,755	1,638	79	4,553

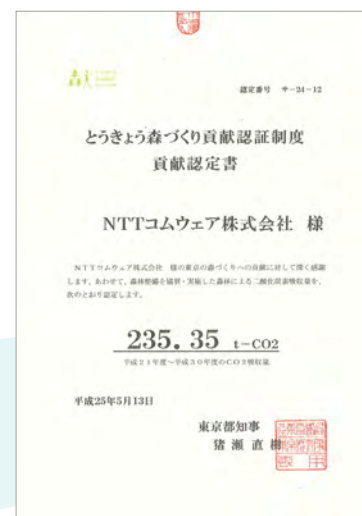
\* 2013年7月現在

\* ITSS:ITスキル標準。経済産業省の定めた個人のIT関連能力を職種や専門分野ごとに明確化・体系化した指標

### 企業の森・NTTコムウェア(青梅)

NTTコムウェアは、環境貢献活動を重要なCSR活動のひとつと位置づけ、社員の参画を推進しています。その一環として、2009年より、東京都が行っている「花粉が少ない森づくり運動」に協賛し、「企業の森・NTTコムウェア(青梅)」(通称:コムウェアの森)3.14haにおいて、社員有志で結成された環境サポーターズを中心に社員・OBにより、植林、下刈りなどの森林保全活動を行っています。このような活動に対し、2013年5月、NTTコムウェアは、東京都の森づくり活動や多摩産材の利用促進に大きな貢献を行った企業とその活動を認証する「とうきょう森づくり貢献認証制度」における貢献認定書を授与され、植林・保全している木々の生育により、2009年～2019年の10年間で235.35t-CO<sub>2</sub>分のCO<sub>2</sub>吸収効果があると認められています。

#### とうきょう森づくり貢献認証制度 貢献認定書





# NTTコムウェアグループのCSR

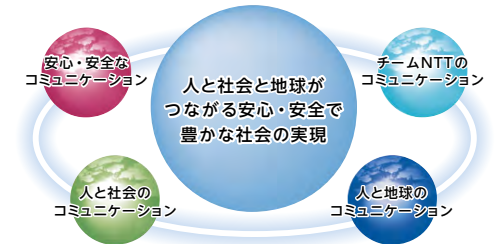
## 安心・安全で豊かなコミュニケーション社会の実現に貢献

NTTコムウェアグループは、情報通信の基盤を担う責任ある企業群として、  
安心・安全で豊かなコミュニケーション社会の実現に貢献します。

### NTTコムウェアグループのCSRの考え方

NTTコムウェアグループにおけるCSRは、お客さまをはじめとする幅広いステークホルダーに価値を提供しつつ、社会全体の持続的発展に寄与しようとするものです。NTTグループが一体となった取り組みに参画しながら、同時に“NTTコムウェアグループらしさ”も追求しています。

### NTTグループCSR憲章



### NTTコムウェアグループCSR活動指針

私たちコムウェアグループは、高い倫理観を持ち、地球、社会の一員としての自覚のもとに、情報通信の基盤を担う責任ある企業群として、最新技術によるネットワークの構築やICTソリューションの提供を通じて、安心・安全で豊かなコミュニケーション社会の実現に貢献します。

### 行動指針

私たちコムウェアグループは、豊かな地域社会づくりを推進し、地域社会の課題の解決に取り組み、地域社会に貢献します。

地域社会

私たちコムウェアグループは、社会の重要な通信インフラ構築を担う企業として、災害に強く、かつ強固なセキュリティ環境を確保した多種多様なサービスの提供を可能とする通信インフラの構築及び高度な技術に基づく最適なICTソリューションの提供により、お客様や社会に安心・安全、便利で快適なコミュニケーション環境を提供することに全力を尽くします。

お客様・社会

私たちコムウェアグループは、人権を尊重し、心身ともに健康で明るく風通しの良い活力ある職場づくりに努力するとともに、一人ひとりが知恵を出し合い、自らが全力で行動し、課題の解決に取り組み、お客様や社会に喜ばれる会社づくりに邁進します。

社員

私たちコムウェアグループは、CO<sub>2</sub>削減のため森林資源保護活動に取り組みとともに、自らの環境負荷低減はもとより、事業活動においては、環境アセスメントを取り入れたICTソリューションの提供により、地球環境の保全に貢献します。

環境

株主

私たちコムウェアグループは、高度な技術とノウハウを持って積極的に業務改善に取り組み、NTTグループの競争力向上に寄与することで、NTTの株主に対する価値を高めます。



# CSR活動ダイジェスト

## 2012年度の主なCSR活動実績と2013年度の施策

NTTコムウェアグループでは、NTTグループのCSRテーマ、重点活動項目に沿ってCSR活動を整理し、取り組んでいます。

NTTグループのCSRテーマ	重点活動項目	主な取り組み	2012年度の実績	自己評価	2013年度の施策	
I. 人と社会のコミュニケーション	ユビキタス社会の実現に向けた取り組みの推進	新サービスの創造	▶ NTTグループ会社と連携し、PCに不慣れなお客さまを支援するサービスの企画・開発を実施 ▶ SmartManualの商品化	○	▶ TVやスマートデバイスで安心・安全・便利に使っていただけるような、新たなサービスやユーザインタフェースの創造	
	II. 人と地球のコミュニケーション	低炭素社会の実現	電力消費量の削減	▶ オフィスの省エネ対策の実施 ▶ 排熱式データセンターの導入 ▶ NTTコムウェアグループ拠点に太陽光発電設備を4ヶ所設置 ▶ NTT-グリーンLLP(有限責任事業組合)への参画	○	▶ オフィスおよびデータセンターの省エネ対策の継続実施
		循環型社会の形成	産廃物最終処分量の削減 紙排出量の削減	▶ 一般廃棄物のリサイクル率 99% ▶ ペーパーレス会議などによるOA用紙の抑止 (OA用紙の購入量を2011年度に対して10%削減)	○ ○	▶ 一般廃棄物のリサイクル率、前年度実績の維持 ▶ ペーパーレス会議などによるOA用紙の抑止 (OA用紙購入量 前年度より削減)
		生物多様性の保全	事業活動を軸とした展開	▶ 「企業の森・NTTコムウェア(青梅)」での森林保全活動と植生調査の実施 活動参加のべ人数 (NTTコムウェアグループ会社社員): 143名	○	▶ 「企業の森・NTTコムウェア(青梅)」での森林保全活動と植生調査の継続実施
III. 安心・安全なコミュニケーション	重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保	大規模災害への備え	▶ NTTコムウェアグループ防災訓練、大規模災害時の情報伝達訓練の実施 ▶ 東日本大震災を踏まえた大規模災害時の事業継続マニュアルの整理	○	▶ NTTコムウェアグループ防災訓練の実施 ▶ 東日本大震災を踏まえた大規模災害時の事業継続マニュアルの再整理	
	情報セキュリティの確保	情報漏えいの防止	▶ 標的型攻撃に対する対策の実施	○	▶ セキュリティ施策運営状況の可視化とNTTコムウェアグループ会社への拡大 ▶ 外部からの脅威への対応	
		セキュリティ意識の維持・向上	▶ セキュリティ事件・事故に対する緊急時演習の実施 ▶ WBT*3による情報セキュリティ・個人情報保護研修(全社員)の実施	○	▶ WBT*3による情報セキュリティ・個人情報保護研修(全社員)の実施	
		セキュリティ活動の改善・定着・維持	▶ セキュリティポリシー運営の構築と実践の実施	○	▶ セキュリティ活動におけるNTTコムウェアグループ会社連携の強化	
		お客さま満足に向けた取り組み*1	品質向上への取り組み	▶ 品質マネジメントシステム(QMS)の取り組み実施 ▶ ITサービスマネジメントシステム(ITSMS)の取り組み実施	○	▶ 品質マネジメントシステム(QMS)の継続的な取り組み ▶ ITサービスマネジメントシステム(ITSMS)の継続的な取り組み
			CS*2改善サイクルの定着化	▶ お客さまのご意見・ご要望をもとに継続的な改善取り組みを実施	○	▶ お客さまのご意見・ご要望をもとに継続的な改善取り組みを実施
IV. チームNTTのコミュニケーション	企業倫理の推進*1	倫理観の高揚と不正・不祥事の回避	▶ 経営幹部層へのコンプライアンス研修の実施 ▶ コンプライアンス標語の募集・表彰・掲示の実施 ▶ WBT*3による企業倫理研修(全社員)の実施 ▶ 社員意識調査の実施	○	▶ 経営幹部層へのコンプライアンス研修の実施 ▶ コンプライアンス標語の募集・表彰・掲示など ▶ WBT*3による企業倫理研修(全社員)の実施 ▶ 社員意識調査の実施	
		人権啓発活動の実施	▶ 階層別研修およびWBT*3による全社員研修の実施 ▶ 人権標語の募集および社内掲示による啓発活動の実施 ▶ 人権啓発推進者研修と人権職場学習会の実施	○	▶ 階層別研修およびWBT*3による全社員研修の実施 ▶ 人権標語の募集および社内掲示による啓発活動の実施 ▶ 人権啓発推進者研修と人権職場学習会の実施 ▶ 社員意識調査の実施	
		多様性の尊重と機会均等に向けた取り組み	多様な働き方の支援	▶ 育児休職復職者への各種支援の実施(セミナー、面談など) ▶ 女性管理者比率の向上	○	▶ 育児休職復職者への各種支援の実施(セミナー、面談など) ▶ 女性管理者比率の向上
			障がい者の受け入れ・支援の充実	▶ 障がい者雇用率 2.01% (2013年7月現在、前年度:1.88%)	○	▶ 障がい者雇用率の維持・向上
		健康に、安心して働ける職場づくり*1	メンタルヘルス教育の実施	▶ 管理者メンタルヘルス研修の実施 ▶ 全社員向けメンタルヘルス「セルフケア」の実施	○	▶ 管理者メンタルヘルス研修の実施 ▶ 全社員向けメンタルヘルス「セルフケア」の実施
		社会貢献活動	社員参加型による取り組み	★ エコキャップ運動への参加 (NTTコムウェアグループ全体) ★ 各種清掃活動への参加 (NTTコムウェアグループ全体) ▶ ミニバレー大会の開催 (NTTコムウェア北海道) ▶ 「TABLE FOR TWO」プログラムへの参加 (NTTコムウェア) ▶ 「ボランティアギフト・プログラム」の実施 (NTTコムウェア)	○	
		事業特性にマッチした取り組み	▶ 全国のNPO法人39ヶ所へ92台のPCを寄贈 (NTTコムウェア) ▶ 海外研修生の受け入れ (NTTコムウェア九州) ▶ 資材入荷梱包材の出荷梱包材への転用・残ロール紙のコピー用紙へ利活用 (NTTコムウェア・ピリングソリューション)	○	▶ 「社員参加型」、「事業特性」、「地球環境保護」の3つの視点から活動テーマを設定し、自主的な取り組みによる社会貢献活動を積極的に推進 ▶ 「★」のエコキャップ運動、各種清掃活動への参加は、NTTグループ共通の活動テーマでもあり、引き続き積極的に取り組む	
		地球環境保護に対する取り組み	▶ 「企業の森・NTTコムウェア(青梅)」の森づくり (NTTコムウェア・ピリングソリューション、NTTインターネット、NTTコムウェア東日本、NTTコムウェア) ▶ 国有林の保全活動への参加 (NTTコムウェア西日本) ▶ 屋上緑化の取り組み (NTTコムウェア西日本) ▶ 足尾銅山植林作業 (NTTコムウェア・ピリングソリューション)	○		

\*1 NTTコムウェアグループとしてのCSR重点活動項目

\*2 Customer Satisfaction (お客さま満足)

\*3 Web Based Training (インターネットを利用した教育学習システム)

# 報告媒体のご紹介

## CSRサイト

CSR活動の詳細情報を掲載しています。NTTコムウェアグループ各社のCSR活動をご覧ください。



CSR活動事例や詳細データを網羅的に掲載し、多くの具体的な活動事例をご覧ください。内容としています。

# 編集方針

## 編集にあたって

NTTコムウェアグループは、2007年度より「NTTコムウェアグループCSR報告書」を発行し、CSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任) 活動の状況を皆さまにお伝えしています。2013年度版は、2012年度版に続き、社会に対する影響が大きくかつNTTコムウェアグループにとっても重要度の高いテーマを中心にダイジェスト化して冊子にまとめました。NTTグループ全体のCSR活動との調和を図るために、報告内容の整理にあたってNTTグループCSR憲章を参照しました。

ステークホルダーの皆さまとの活発なコミュニケーションが生まれるよう、NTTコムウェアグループのCSR活動をわかりやすくご報告しております。

## 報告対象組織

原則として、NTTコムウェアグループ(8社)全体の取り組みについて報告しています。なお、NTTコムウェア単独または各グループ会社の取り組みについて報告している箇所では、それぞれの名称をあげています。

## 報告対象期間

2012年4月1日～2013年3月31日  
(一部、2013年4月以降の取り組みについても報告しています。)

## 参考ガイドライン

GRIサステナビリティレポートガイドライン(G3.1版)

## 発行時期

2013年9月(前回発行2012年10月)

\* 人名、団体名、公共機関名などは原則として敬称を略しています。

## お問い合わせ窓口

NTTコムウェア株式会社  
総務人事部 CSR推進室  
〒108-8019 東京都港区港南1-9-1  
NTT品川TWINsアネックスビル  
Tel: 03-5463-5756  
Fax: 03-5479-9218  
E-mail: csr@nttcom.co.jp



「エコICTマーク」とは、ICT分野におけるエコロジーガイドライン協議会が定めるシンボルマークです。電気通信事業者が適切にCO<sub>2</sub>排出削減の取り組みを自己評価し、その取り組み状況に応じて「エコICTマーク」を表示し、適切に活動していることを広く公表することができます。

NTTコムウェアは、電気通信事業に関わる企業としてCO<sub>2</sub>削減に取り組んでまいります。